

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2775502442		
法人名	社会福祉法人 高安福祉会		
事業所名	グループホームしぎのさと		
所在地	大阪府八尾市服部川5-7-1		
自己評価作成日	平成 30年 12月 20日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ijyosovoCd=2775502442-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 31年 2月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体である特別養護老人ホーム信貴の里の別棟になっており、ホームの庭園には石灯籠や大きな樹木がある日本庭園の一隅もあります。行事や催し物は法人全体の行事として、併設施設の入所者様と一緒に交流しています。利用者様に家庭的な環境の中で日々過ごしていただくために、毎日スーパーに買物に行き食材を選んでいただき食事のお手伝いをしていただいています。食事が待ちどおしいと思っていただけよう、食材にこだわっています。肉は国産、魚は魚屋、米は米屋から取り寄せており、好評をいただいております。入所者様主体の会議、利用者会議は、進行、議事録を入所者様が行い、入所者様の声を実現しています。体調がすぐれない時は、併設している診療所の看護師に相談や、必要時は主治医が夜間を含め住診いただいています。看取りについても、ご家族様、主治医、ナース、スタッフで話し合い、グループホームで看取らせていただいた利用者様もいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に定着した社会福祉法人が「認知症になっても住み慣れた地域で暮らしたい」との地域のニーズに応じて設立したグループホームです。隣接する同法人の特養や地域包括支援センターと連携を図りながら利用者の暮らしを支援しています。ホームの窓からは信貴山につながる高安山や花のある田畑等田園風景を見ることができ、四季の移ろいを感じることができます。設計から職員の意見が取り入れられたホームの内部は、木をふんだんに使った温かみのある造りです。ホームでは、「利用者会議」を開催し、甲子園球場での野球観戦、演芸鑑賞、競馬観戦、外食等、利用者の望むことを実現させています。職員の主体性が尊重された職場は離職者が少ない職場環境です。食材にこだわった利用者・職員で作る食事もホームの自慢のひとつです。リビングでは、包丁を持って野菜を切る・食器やお盆を拭く、盛り付けをする等、普通の家庭の光景を毎日見ることができます。利用者一人ひとりができる家事に取り組む活動的な毎日は、利用者の表情が活き活きとし、利用者から「1日の時間が短い」とつぶやく声が聞こえるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「入所者様の人間性を尊重し、自尊心や夢を損なわないよう配慮し、明るく、楽しく、住み慣れた地域で充実した健康管理や生活介護サービスを提供しています」を掲げ、地域との交流を持ち地域の拠点になりたいと考えています。信貴の里スローガンを事務所内の目立つところに掲示しています</p>	<p>「入所者様の人間性を尊重し、自尊心や夢を損なわないよう配慮し、明るく、楽しく、住み慣れた地域で充実した健康管理や生活介護サービスを提供しています」の理念と「初心を忘れず思いやりの気持ちを大切にします。いつも笑顔であいさつします。常に尊敬の念を持ち介護させていただきます。自立支援を目指します。」のスローガンを掲げ、職員間で共有し実践しています。理念は、フロア内に掲示され、地域住民や家族に理解してもらっています。年度始めと終わりの運営推進会議で事業計画・報告の説明を行っています。利用者の生き生きとした表情、職員の顔、ホームの和やかな雰囲気等から理念の実践が伺えます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>入所者様と地域のスーパーに出かける以外に、地域のお店に、お米は米屋、魚は魚屋、その他多くの食材を配達していただいています。植木屋から菊を頂いたり、七夕に使う笹を頂き地域の一員として日常的に交流しています。ベランダに洗濯物を干している時、雨が降ってくると、電話で教えてくれることもあります。今後も地元の人々との交流を深めるために、グループホームに来て頂くだけでなく、入所者様が地域に出かけることを継続します。</p>	<p>開設当初から地域との付き合いを大切にしています。3食ホームで手作りの食事は地元の食材にこだわり、米・魚・野菜等、地元の店から配達してもらっています。近所の方から畑でできた野菜やもち米、花などをもらうこともあります。日常的には、近隣への散歩やスーパーへの買い物、喫茶店に出かけ、地域の方達と顔なじみとなっています。ベランダに洗濯物を干している時、雨が降ってくると、近所の方が電話で教えてくれることもあります。地域にお店がなくなり、コンビニもないことから、「利用者や地域住民に役立てないか」と地域包括支援センターと一緒に、地域の福祉施設としての役割を担うため週1回、コンビニを巻き込んだ「出張コンビニ」を実施しています。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>入居希望のご家族様への介護相談及び施設の見学など随時対応しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営状況、行事の報告、外部評価の報告、昼食作りを利用者様と一緒に、避難訓練に参加、入居者様の日々の様子、職員の研修報告を行っています。委員の皆様から様々な意見を聞き、サービスに取り入れサービスの向上につなげていくよう取り組んでいきます。改善点については早急に対応し、良い点についてはより良く継続できる様サービスの質の向上につなげています。</p>	<p>運営推進会議は要綱に沿って、2か月に1回開催しています。参加者は利用者、家族、市職員、民生委員、高齢クラブ代表です。会議はリビングで行い、参加者は利用者の日頃の暮らしぶりを感じることができます。会議内容として、ホームからは行事報告、活動報告を行い、健康管理等について伝えています。参加者からは手作り食事の継続や利用者の希望する外出についての要望があり、職員はサービス向上に向けて取り入れ支援しています。会議内容はグループホーム会議で職員に伝え共有しています。会議録は玄関に置き、訪問者は誰でも見るができます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>八尾市に2ヶ月に一度、運営推進会議についての報告をしています。その他は随時連絡し相談にのっていただき、助言を頂いています。</p>	<p>市担当者とは都度連絡をとれる関係を築いています。運営推進会議に市の担当者の参加があります。管理者は、市の「事業者連絡会グループホーム分科会」の会長を務めています。地域包括支援センターより、自宅での生活が難しくなってきた方の入居相談があり、受け入れに際して地域包括支援センター職員、ホーム職員と協議を重ねる機会があり、市との連携がより密になりました。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は玄関の施錠はしていません。回廊式になっているベランダへ出るドアも施錠していません。入所者様は朝食後にベランダに出て散歩をしたり、朝の新鮮な空気を肌で感じていただいています。禁止の対象になる具体的な行為は行っていません。言葉の抑制を検討し、入所者様の関わりについて向き合っています。今後も勉強会を通じ入所者様中心のケアに取り組んでいます。</p>	<p>身体拘束廃止や虐待防止に関する研修を実施し、職員間で人権を守るケアの確認を行っています。毎月定期的に「0(ゼロ)委員会」を開催し、身体拘束や虐待のないケアに取り組んでいます。委員会では「抑制にならない声かけをし、利用者様に対して過ごしやすい空間を提供する」などの具体的な目標を掲げ、実践しています。ベランダやテラスへ自由に出ることができ、利用者がベランダで洗濯物を干す姿は当たり前の光景です。玄関やエレベーターには、数字入力のキーをセットしていますが、番号を表示し、いつでも開けることができるようにしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待、身体拘束等について、毎月目標を掲げ、法人内で行っているゼロ委員会で取組みを報告。困難な事例については他部署からアドバイスももらうことができます。ゼロ委員会の内容をグループホーム会議で伝達し、虐待の防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修会に参加しています。成年後見人制度を利用されている方もおられ、今後も相談があれば、制度の説明を行い、必要な方には活用していただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、退所時には疑問点や不安な点を十分に話し合い理解、納得を得ています。これからの暮らしについて、よりよい方法を提案する等、納得が行くまで一緒に考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関には苦情の受付窓口担当者の名前、第三者委員の名前、福祉サービス苦情解決委員会の連絡先を記載したポスターを掲示し、外部への連絡方法を示しています。</p> <p>来園時や電話による近況の報告以外に、3ヶ月に1度ケアプランを更新し、ご家族からコメントを頂くようにしています。行事後、ご家族にアンケートを行い、次年度に活かせるようにしています。</p>	<p>職員は日々の暮らしの中で利用者の希望や要望を聞いています。また「利用者会議」を行い、利用者の食べたい物、行きたい所等を話し合い、実現させています。「利用者会議」の記録は利用者が行っています。家族には来訪時に声掛けし、話しやすい雰囲気づくりをしています。敬老祝賀会にはほとんどの家族が参加し、家族ごとにテーブルを設定し、写真集を置くことや、スライドで日頃の暮らしぶりを伝えていきます。行事の後にはアンケートで意見を聞き、次回に活かしています。管理者は家族の積極的な協力に対し「家族に恵まれていることもホームの自慢」と家族に感謝しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議などで職員の意見に耳を傾け検討しています。職員が自由な意見が出せるような雰囲気作りを心掛けています。	毎月のグループホーム会議で職員は意見を出し合っています。管理者は、会議のほか、日常的に職員の意見や要望を聞いています。ホームでは、職員のスキルアップを目的に毎日リーダーを決め、職員の判断力・指導力・交渉力・コミュニケーション力等を養っています。管理者は職員を育てることも役割だと自覚し、人材育成に取り組んでいます。リーダー制の導入で、職員それぞれが「責任感が強くなった」と感じています。職員の自主性が尊重され、職員の頑張りが承認される職場環境は、職員の士気を高め、離職者も少ない状況です。職員の工夫をホーム内のあちこちに見ることができます。管理者から「職員が自慢のひとつです」と聞くことができました。職員は、管理者が注意・指導してくれることに感謝しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から研修参加の希望があった時は、勤務調整を行っています。共済会による福利厚生の利用、夏休や冬休、賞与、昇給の他、残業ゼロの取り組みを行っています。各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回認知症の勉強会を全職員が参加できるよう、複数回同じ内容で開催し参加しています。新人職員には、新人職員研修を行い、介護の基本を学んだうえで、入所者様の介護をするようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会・大阪府認知症高齢者グループホーム協議会に参加しています。管理者は市の「事業者連絡協議会グループホーム分科会」の会長を務めており、勉強会や情報交換の場を作りサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は職員が寄り添い、環境の変化等、本人の不安を受け止めるようにしています。趣味の合う入所者様がいれば、席を横に案内し交流を深めていただき、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との話し合いの中で、不安や要望を伺い入所者様の自尊心を傷付けないよう、後日改めてご来園や電話等を利用し、不安を受け止めるよう努めています。ご家族様からの不安や要望を面接記録に記載し、全ての職員が把握するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスの説明を行い、ご家族様の意向を伺いながら行っています。医療的なニーズについては、主治医・看護師と相談し提案しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入所者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、普段から入所者様に教えてもらう場面もあります。またそういう場面が多くもてるよう工夫や声掛けを行っています。入所者様にもそれぞれに役割をもつていただき、お手伝いしたり、入所者様に手伝っていただいたりすることで共に暮らしを支える関係を作っています。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>来所時や電話等で、入所者様の近況報告や対応について一緒に考え、入所者様のニーズが実現できるよう努めています。ご家族様の精神面のケアを職員は視野に入れ接しています。行事の思い出をCDにして、家人来園時や敬老祝賀会で利用者様と一緒にみて頂いています。ご家族様の考えに共感し、話し合い一緒に支え合う関係を作っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの店に買い物に行くご家族様宅に外出、外泊され交流されています。古くからの友人が面会にこられる方もいます。入所者様が大切に大事に思う馴染みの場所に行き、関係が途切れないようにしています。</p>	<p>職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者に大切なことと理解し、支援に努めています。小学校からの友人が訪れてくれる利用者、馴染みの美容院や商店街等に行く利用者がいて、職員は少しでも長く継続できるよう支援しています。利用者はホームの窓やベランダから家にいた時と同じ、慣れ親しんだ山や家並み、風景を見ることが出来、馴染みの場所との関係が継続しています。職員は、利用者から聞いた昔ばなしに、利用者一人ひとりの長い人生に思いを馳せる大切さを学んでいます。毎日の暮らしの中で、利用者も積極的に家事を担い、昔取った杵柄を発揮しています。日中の活動的な過ごし方は、薬を使わない安眠に繋がっています。買い物では、「自分のお金を自分で払う」ことを大切に支援しています。日常のさまざまな活動がリハビリになり、入居前より利用者の身体機能等が各段に向上していることを家族も喜んでいます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者様の人間関係を把握し、職員が入所者様の輪に入り、安心して暮らせるよう配慮しています。入所者様同士が協力し合える雰囲気作りを心掛けていきます。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に、困った事があればいつでも相談して下さいとお伝えしています。ご家族様から季節ごとに、近況の連絡をくださる方もおられます。退所後にグループホームの思い出をCDにして渡しています。退所後に家族と交流を持ち、関係を断ち切らない取り組みをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、会話や観察により入所者様の思いや、意向を気づけるように努めています。困難な方にはご家族様から情報を得るようにし本人本位に検討するようにしています。日々の暮らし中心のケアカンファレンスを月に1回行い、利用者様本位に検討しています。	職員は、利用者との何気ない会話や動作から本人の意向や要望を把握し、毎日のミーティング記録に残し、職員間で共有しています。また、「利用者会議」を開催し、甲子園球場での野球観戦、演芸鑑賞、競馬観戦、外食等、利用者の望むことを実現させています。職員の離職者が少なく、利用者と職員の馴染みの関係ができていることも、質の高い個別支援に繋がっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用前の面接時に、ご本人様・ご家族様から伺い、その後も日々の暮らしの中で、発見に努めています。生活歴や馴染みの暮らしは面接記録やケアプランに記載し、職員が情報を共有できるようにしています。面接記録やケアプランを職員が把握し、馴染みの暮らしができるようにしています。甲子園に行き、阪神タイガースの応援、バス旅行を開催等、これまでの暮らしの継続に繋がっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日に出勤している職員は、入所者様と関わりをもち、一日を通して入所者様の心身状態の変化がないかを観察し、何か変化があった場合は記録に残し、情報の共有を図っています。出勤職員からその日のリーダーを決め、リーダーはその日の利用者様の様子を見極め、指示を出し現状の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>大阪府認知症高齢者グループホーム協議会書式のサービス計画書を利用しています。月に1度サービス担当者会議を開き、ご家族様の意見も取り入れて、介護職員と計画作成担当者が共に介護計画を作成し、全職員に周知しています。入所者様やご家族様には面談の上、介護計画を説明し同意のサインをいただいています。ご家族様にケアプランのコメントをいただき、ご要望があれば、相談の上ケアプランに取り入れ、現状に即した介護計画を作成しています。</p>	<p>利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。基本は3か月毎に見直し、状態に変化があった場合は随時見直しています。モニタリングは毎月行っています。毎月のグループホーム会議で利用者一人ひとりのカンファレンスを行い、出た意見は介護計画に活かしています。計画作成担当者は介護計画作成にあたり「誰が見てもわかりやすい介護計画」を心がけています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>入所者様の変化や状態などケース記録に記載しています。入所者様の変化の把握に努め介護計画に活かしています。入所者様の気づきや変化などを記録し、計画に活かしていきます。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入所者様の視点に立ち、どのようなニーズに対しても、あらゆる方法を思案し、他機関と連携をとり、柔軟に対応します。訪問リハビリ、利用者様の希望により、耳鼻科往診可能な医療機関を探し、専門医往診に繋げ診療の充実、コンビニエンスストアの移動訪問車誘致、衣料販売等様々なサービスを柔軟に行い、多機能化に取り組んでいます。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入所者様の生活歴を知ることで、役割を持っていただき、充実した日々を過ごしていただいています。今まで関わってきた地域資源(病院、スーパー、地域との交流)を入所後も利用し充実した日々を過ごしていただくよう支援しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所時に入所者様やご家族様と話し合い、入居以前からのかかりつけ医に受診するか、併設診療所の医師に受診するか話し合い、希望する医療機関を利用しています。併設診療所から週2回往診があり、常に入所者様の状況を把握しています。点滴等が必要な場合は毎日往診してもらうなどの対応が可能です。専門外の診療科目について受診が必要な時には職員が通院介助を行うことも可能です。入居前よりのかかりつけの医院に診ていただいている方もいます。適切な医療を受けられるよう支援します。</p>	<p>入居前からのかかりつけの医療機関へは、希望があれば受診可能です。ホームの主治医の往診が週2回ありますが、24時間のオンコール体制があり、また日常的に看護師による健康管理が行われており、急変時など、いつでも往診してもらえる体制が整っています。精神科、眼科、歯科など専門医の往診もあり、利用者は必要に応じて往診を受けています。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週2回看護師がグループホームで業務を行い、利用者様の健康管理と適切な受診ができるよう支援しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時の受け入れ先病院の希望は契約時にうかがっています。入院が必要な時は主治医が受け入れ先の病院に連絡し、手続きしていただいています。入院中はスタッフがお見舞いに行き、退院時は病院でのケアカンファに参加しています。退院後は主治医と家族カンファを開催し医療関係者との関係づくりを行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>法人として看取りについて指針を作っています。入所時に看取りについて理解を頂き同意書を交わしています。重度化した場合、本人の意思、ご家族の思いを聞き取り、グループホームでできる看取りを理解していただき、可能な限り尊厳と安楽を保ち、安らかな終末期を迎えられるように、チームで支援に取り組んでいます。</p>	<p>重度化や終末期の対応については、入居時に看取りに関する指針をもとに家族や利用者に説明を行っています。終末期に関しては、医師の指示があった段階で家族と話し合いを重ね、方針を決定しています。フロアにベッドを置き、最期までみんなと一緒に過ごせるように工夫しています。看取った後は、利用者の思い出のDVDを作り家族に渡しています。利用者の法事に職員が呼ばれたり、一周忌の後、家族がホームを訪ねたり、亡くなった後も家族との交流が続いています。看取った家族からの感謝の言葉や、看取りの経験を通じての貴重な学びから、職員の意識も変わり、「利用者の最期は、私たちが看取りたい」と現場から声があがるようになってきました。また、看取りの貴重な学びから「明日できる、という考えを止めよう」と「今、関わることの大切さ」を日常のケアに活かしています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護師より緊急時の対応について勉強会が開催され参加しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、年2回避難訓練を実施しています。災害対策マニュアルを把握し避難経路を確認しています。非常・災害時のための食料品と水の備蓄もしています。運営推進会議のメンバーに消防訓練に参加していただき、地域の理解と協力体制を築いています。	年2回避難訓練を行っています。1回は消防署の立ち合いで訓練しています。1回は夜間想定で行い、災害時の安全に努めています。訓練には運営推進会議メンバーである地域の方の協力があります。災害用備蓄は日々の食材や米・水等を用意しています。食料に不足が生じた時や備品等は隣接の特養と連携を持つことで災害時に備えています。	現在ある「地震対策マニュアル」を見直し、火災・地震・台風等グループホーム独自のマニュアルを策定し、利用者のより安全・安心な暮らしを支援されてはいるかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様を尊重しプライバシーを損ねない対応を心がけています。個人情報取り扱いについては、勉強会などで職員の意識向上を図っています。入所者様の個人情報に関する書類については、鍵付きの棚に保管しています。	スローガンのひとつに「常に尊敬の念を持ち介護させていただきます。」と掲げ、実践しています。管理者は職員に、「利用者への声かけや対応に『気持ち』があるかどうかが大重要だ」と伝えていきます。職員は、利用者一人ひとりの個性を尊重し、本人の気持ちを大切にし、さりげないケアや自己決定しやすい言葉かけをしています。親しさが慣れ合いにならないように、職員間で注意しあえる環境です。排泄や入浴介助の際のプライバシーへの配慮も心がけて日常のケアを行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から入所者様と密なコミュニケーションをとり、本人の思いを聞いたり、気づけるように、関わりの姿勢を持ち、入所者様のニーズに沿った、提案ができるよう心がけています。年に数回利用者様主体の利用者様会議を開催し、議事録も利用者様が作成しています。食事の献立の意見、外出のご希望をいただき、実現しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物、散歩、入浴、食事時間など一人ひとりのペースや希望に応じて話し合い、その人に合わせた日々を過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性職員が中心となり日々の整容に気を使っています。外部からエステシャンにきて頂き、無料でうけていただくこともできます。それ以外に月1回訪問理容・美容サービスを利用し希望に応じてカット、毛染め、パーマを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理、盛り付け、片付け等を入所者様と共に行い、職員と入所者様が同じテーブルを囲んで食事を楽しめる雰囲気作りを大切にしています。生ものが苦手な方には代品を用意、丼物が苦手な方には、ご飯とおかずを別の皿にしています。入所者様が育てた野菜が食卓に登ることもあり、食事を楽しむことができるようにしています。</p>	<p>管理者は生活の中で食事を重視し、3食とも手作りです。食材にこだわり、魚は魚屋で、肉は国産、野菜は新鮮な旬の物を使用しています。毎日のように利用者と買い物に行き、一緒に選んでいます。野菜は1日10種類以上使う事を心がけています。利用者は得意分野を活かし、野菜切り、皮むき、盛り付け、食器拭き等を行っています。訪問調査当日も利用者の、毎日が「忙しい・忙しい」、「1日が短い」との声がリビングから聞こえてきました。食事は職員と一緒に和やかに食べています。管理者は利用者の「美味しかった」の声に励まされて手作りの食事を続けてきましたが、重度化と職員補充の難しい状況の中で、いつまで続けることができるかとの思いを抱きながら、「食べることの大切さ」を支援しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所者様一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量については記録し、1日の摂取量を把握しています。栄養バランスを考え、食べたい物などのリクエストを聞いています。1ヶ月毎に献立表を作成しています。母体施設の管理栄養士に相談することもできます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯はポリドントにつけ、口腔内の清潔保持を保ちます。 歯科医師と義歯の管理について相談し、指示をいただいている方もいます。一人ひとりの能力に応じた口腔ケアをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作成し排泄パターンを把握し、トイレの案内時間の見直し等を行い、オムツの使用・排泄の失敗を減らすようにしています。入所者様一人ひとりの排泄リズムを掴み、トイレで排尿できるよう、取り組み排尿リズムを掴む事で、ご本人の排泄能力や環境改善に努めています。リズムを掴むことで、リハビリパンツから布パンツになった方もいます。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、様子を見ながら声かけやトイレ誘導をしています。管理者は、利用者一人ひとりの排泄リズムをつかんでトイレ誘導することの大切さを職員に伝え、トイレでの排泄を基本としています。排泄リズムをつかむことで、紙パンツ使用から布パンツ使用になり、紙パンツ代のコスト削減に繋がった事例もあります。各居室にトイレがあることも、気兼ねなく使うことができ、排泄の自立に繋がっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度の運動や水分補給、食物繊維を多く取るように心掛けています。便秘になりやすい方には、センナ茶を飲んでいただき、便秘の予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴の準備を行い、週3回を目安に入浴していただいています。利用者様のADL低下に伴い、シャワー浴対応の方が増えてきました。介護浴槽の設置が今後必要と感じています。今後改善が必要です。	利用者は週3回の入浴が基本です。希望があれば毎日でも入浴できます。シャンプーなども利用者の好みのものを使うことができます。入浴を好まない利用者には、言葉のかけ方、タイミング、気分など見計らい、工夫して入浴を促しています。利用者の重度化に伴い、利用者が安心して湯船に浸かれる座位浴の導入が課題だと管理者は考えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みのある布団を持参いただき、布団又はベットを選んでいただいています。日中はレクリエーションや家事のお手伝い等で活動的な日々を送っていただき、気持ちよく眠れる環境を整えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の処方箋を薬と一緒に保管し、目的等を把握しています。症状の変化は毎日確認し、必要に応じて主治医に相談しています。全職員が周知でき、新しい職員が入れば服薬時の三度確認（日付け、名前、顔）を指導し、薬の大切さを理解するようにしています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>家庭の延長としてホームの生活を継続していただくために、日常の家事を行っていただいています。洗濯たみやベランダのプランターの菜園の水やり、食事の手伝いや買物など役割を持ち、入所者様の負担にならない様留意しながらできることをお手伝いしていただいています。散歩や、日々の体操、得意な裁縫など趣味を活かしていただき、余暇を楽しんでいただいています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様会議で入所者様に希望をうかがい外出しています。外出先を指定される方もおられます。季節を感じる行事の外出、演劇の鑑賞の外出支援等行っています。相談があれば、どのような形で実現できるかを、職員だけでなく、家族とも相談し外出しています。	ホーム周辺は山並や田園風景が広がる豊かな自然の中にあり、気候の良い時期には毎日のように散歩や食材の買い物に出かけています。隣接する特養の広い屋上庭園は車椅子の利用者も安全に散策できる場所です。家族の協力もあり、年間を通してバスツアー、ショッピング、外食、お寺参り等に出かけています。「利用者会議」で希望のあった場所に行けるよう、個別の外出に取り組んでいます。競馬場、野球観戦等へ行く利用者もいます。家族と外出する時には職員が前もって準備しておく等の外出支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で金銭の管理ができる方にはご本人が管理されています。スーパーへ買い物に出かけ、好きな物を購入されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人の希望があれば電話をかけていただいたり、ご家族様からの電話を取り次いでます。 手紙のやり取りをされている入所者様もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの一角に、段高くした和室には掘りごたつがあり、ゆっくり寛ぐことができます。居室前の廊下の途中に出窓式のベンチがあり、人目を避けてゆっくりできるスペースになっています。廊下の壁面には入所者様の生活の様子分かる写真や利用者の作品を掲示し、居心地よく過ごせるよう工夫をしています。	設計から職員の意見が取り入れられたホームの内部は、木をふんだんに使った温かみのある造りです。広い廊下にある出窓式のベンチに座ると、対面のガラス窓がキャンパスのようになり、外の風景を見ることができます。リビングの大きな窓からは、信貴山につながる高安山や花のある田畑等の田園風景を見ることができ、四季の移ろいを感じることができます。馴染みの家並みも見えます。ホーム内には、季節を感じられる飾り、イベントや外出時の写真が飾られています。ソファの位置にも配慮し、利用者はゆっくりくつろぐことができます。オープンキッチンからは、ご飯の炊ける匂いがし、食事の準備の音が聞こえ、家庭的な雰囲気です。リビングでは、食事の準備や洗濯物の整理など、生き活きと家事をしている利用者の姿が日常になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にソファや和室、廊下にはイスがあり思い思いに過ごせる場所があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好みやご家族様の協力の下で長年使い慣れた布団、書道の道具、家族の写真などを持ち込んで頂き、安心して過ごせるよう工夫しています。個人の居室として、自由に使用して頂ける配慮を行います。	居室の表札には飾り棚がついており、花やぬいぐるみを目印として置いています。畳とフローリングの部屋があり、全室にトイレ、タンスを備えています。危険物以外は自由に持ち込むことができ、テレビや冷蔵庫、本棚、机や椅子、ミシンなど自由に持参しています。家族の写真や作品等を飾り、居心地よい居室づくりを工夫しています。応援している野球球団のポスターを貼ったり、その人らしい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入り口にトイレのマークや案内を掲示しています。廊下には手すりを設置し、一人で安全に歩行ができます。戸は全て引き戸になっており、安全に出入りができるよう工夫しています。入所者様のADLにより居室内に手すりを設置したり、部屋のレイアウトを見直し安全かつ自立した日々を過ごせるよう工夫しています。		